

## 新規就農者の確保

### ■背景とねらい

新規就農者を確保し育成するためには、求める人材像を明らかにし、受入体制を整備することが必要である。

また、就農相談は早期から関係機関が連携して情報を共有し対応することが重要である。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 就農作戦会議の開催

市町村・JA 等と担い手確保に係る活動内容や担い手の育成状況と課題について共有するために、5月31日に就農作戦会議を開催し、就農後のサポートの在り方について意見交換した。また、地域ごとの課題について検討するため、地区別の就農作戦会議を開催した。

#### 2 関係機関が連携した就農相談

市町村、JA、農業委員会等と連携して就農相談を行った。就農希望者には品目や規模についての助言や適切な研修方法の提案を行った。令和6年度里親研修開始者は4件となったほか、町独自研修生や担い手就農プロデュースの研修生の確保につながった。また令和5年度の49歳以下の新規就農者は34名となり、目標の30名以上の確保につながった。



里親研修申し合わせの様子

### ■今後の課題と対応

Iターン者の受入体制の整備だけではなく、Uターン就農の受入体制も整えるなど、地域が求める新規就農者像を明確にして受入体制を整備する必要がある。新規就農者確保に向けて、今後も継続して地域の課題を共有し検討する。

(技術経営係：片桐 直樹)

## 新規就農者の仲間づくり

### ■背景とねらい

第4期長野県食と農業農村振興計画のめざす姿「皆が憧れ、稼げる南信州の農業」の実現に向けて、新規就農者が自らの農業経営を発展させ、さらに将来は地域農業の担い手として活躍していくためには、仲間づくりや他の農業者との情報交換、先輩農業者からの支援が欠かせないことから、毎年新規就農者激励会を実施している。

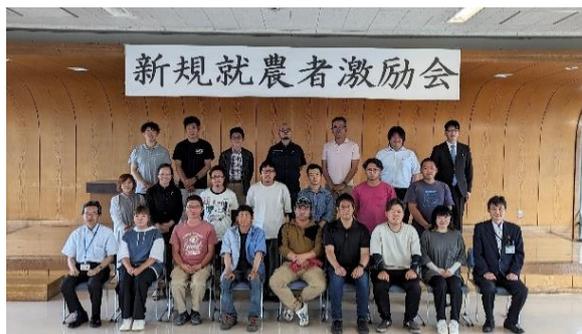
### ■本年度の取組と成果

本年度は、6月21日に、飯田合同庁舎講堂にて、新規就農者激励会を開催した。

新規就農した12名の出席者が現状や課題、今後の展望について自己紹介した。

青年農業者で組織する団体（JAみなみ信州青年部、農業士協会下伊那支部、かたつむりの会、松川町若手農業者の会「若武者」）が、それぞれの活動を紹介し、加入を呼びかけた。

また、農業経営者協会下伊那支部、農村生活マイスター協会飯伊支部、飯伊地区農村女性ネットワーク、JAみなみ信州、市町村関係者等も多数出席し、農業に対する思いや就農者への期待を伝え激励した。



新規就農者と青年農業者らの記念写真

### ■今後の課題と対応

新規就農者の仲間づくりのきっかけと、地域の農業経営者との交流の場となるよう、情報交換の時間も確保し、継続して開催していく。

(技術経営係：片桐 直樹)

## 里親農業研修生の円滑な就農

### ■背景とねらい

新規就農里親研修事業においては研修生と里親農業者の信頼関係の構築が重要である。定期的な巡回支援等により技術習得・就農準備状況を把握し、研修中の問題や課題は早期に対処することが必要である。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 新規就農支援里親協働事業の実施状況

(1) 新規就農里親農業者登録者 28名

(2) 新規就農里親研修事業実施状況

令和4年4月～令和5年3月 2名

#### 2 新規就農里親研修事業実施者への支援

月1回以上の巡回を行い、研修の実施状況や課題、就農準備の状況を確認するとともに、実現可能な就農計画の作成を支援し、円滑な研修と就農を支援した。

#### 3 関係機関と連携した研修生への支援

南信州地域では、新規就農里親研修事業を活用せずに法人等に就農しながら研修する者や、JAや市町村の研修制度を実施する方も多いため、関係機関と連携し、研修生向けのセミナーの開催や青年農業者を対象とした講習会等の積極的な受講を呼びかけて基本的な知識の習得を促した。



研修生向けの農業簿記講座の様子

### ■今後の課題と対応

研修中の問題は早期に把握し解決することが重要であるため、巡回により里親農業者と研修生から別々に話を聞くとともに、研修の振り返りや技術の習熟度を把握する機会を設定する。

(技術経営係：片桐 直樹)

## 農業の基礎講座の実施

### ■背景とねらい

農業経営を継続し発展させていくためには、農業知識や技術習得が不可欠であるが、昨今の気候変動や原材料費高騰等、厳しい農業情勢の中では経営力の向上が必須である。

そのため、就農した青年や就農を目指して研修中の者を対象に経営力を向上させるための基礎講座を実施した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 講座（スキルアップセミナー）の開催

就農5年以内の者や就農を目指して研修中の者の状況把握を目的に、年度当初に巡回し、スキルアップセミナーへの参加を呼び掛けたところ、15名の申し込みがあった。複式簿記帳や「トヨタ式カイゼン」の講座等計7回開催し、延べ48名の出席があった。

「トヨタ式カイゼン」の講座は本年度から新たに開催し、カイゼンの目的や実際に取り組んでいる農家等を視察し、経営カイゼン意欲の向上を図った。なお、農業の基礎知識・技術の習得については、JAと共催している帰農塾の受講を呼びかけた。



2/13 先輩農業者のカイゼン事例を視察

### ■今後の課題と対応

来年度も引き続き先進農業者の視察や経営感覚養成に係る講座を開催し、新規就農者の仲間づくりや経営力向上を図る。

(技術経営係：片桐 直樹)

## 「かたつむりの会」の活動支援

### ■背景とねらい

飯田市を中心に南信州地域の青年農業者 91 名で構成される「かたつむりの会」は、地域を代表する農業青年クラブである。関係機関と連携した地域のPR活動や、地域の高校との連携、勉強会の開催等、会員同士の交流及びそれぞれの経営に役立つ自主的な活動を支援している。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 役員会・定例会の開催支援

本年度は役員会を月1回、定例会および総会を合わせて6回開催し、会の活動についての協議他、会員同士の交流や情報交換の場となっている。

#### 2 勉強会・研修会の開催支援

「スマート農業について（4月）」、「販路拡大について（6月）」、「主に果樹を中心とした獣害対策について（8月）」の勉強会を全3回開催した。2月には冬季研修会を開催し、岐阜県のポリポット製造工場等を視察した。

#### 3 下伊那農業高校との連携支援

10月、11月の下伊那農業高校のアグリサービス科の料理コンテストでは審査員を担当し、同校の園芸クリエイト科の1月の魅力発見セミナーでは会員2名が講師を担当した。

#### 4 地域イベントへの参加支援

10月1日に開催された飯田商工会議所青年部主催による「キッチンカーフェスティバル」では、軽トラ市に出展した。会員から生産物を集め、軽トラックに並べて販売した。昨年度に比べ、会員の参加や来客が多く活気あるイベントとなった。

### ■今後の課題と対応

昨年度よりも勉強会や販売イベントへの参加者が多く、新規入会も3名あり、少しずつコロナ以前の活気が戻っている。来年度もさらに活性化するために、販売イベント等積極的な活動を企画していく。

(地域第二係：内田 牧歩)

## 西部地区青年農業者交流会の開催

### ■背景とねらい

コロナ禍で一時中断されていた西部地区青年農業者交流会を昨年度から再開したところ、農業者から「青年農業者数も増え、新たな交流のきっかけとなってよかった。」「今後も学習会やほ場視察を含めた交流会の開催をお願いしたい。」との声が挙がった。これらの意見を基に本年度は西部地区の産地振興につなげることを目的に、ほ場視察による交流会や学習会を開催した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 ほ場視察の開催

5月に阿智村の有機野菜栽培農家と根羽村のトマト養液栽培農家のほ場視察を主軸とした交流会を開催した。当日は農業者と研修生併せて18名の出席があり、有意義な意見交換が行われた。参加者からは、「他の農家のほ場を見る機会があまりないので、良い刺激を受けた。」等の満足した声をいただいた。



ほ場視察の様子

#### 2 学習会の開催

3月4日には阿智村で「経営方針の確立」「雇用する際に注意すべきこと」をテーマに学習会を開催した。また、学習会の中で、グループワークとして参加者15名から自身の経営に関する課題等を説明してもらい情報共有を行った。

### ■今後の課題と対応

現状、交流会へ参加する農家が限定されてきている。より多くの青年農業者に参加してもらえよう内容を検討し、交流会を継続的に開催することで西部地区の産地振興を図りたい。

(地域第三係：坂口 冬樹)

## 南部地区青年交流会の開催

### ■背景とねらい

管内でも条件不利地の多い南部地区は、新規就農者や青年農業者が少なく、情報交換の機会も少ないことから「ゆるやかな連携の構築」を目的とした交流会が10年以上前から取り組まれてきた。

以来、徐々に世代交代が進み、新しいメンバーにより運営されており、本年度も青年農業者の交流会の開催に向けた企画運営を支援した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 交流会の開催支援

##### (1) 開催に向けた検討

各実行委員の繁忙期が異なるため、本年度は交流会の開催に向け、実行委員長と事前に打ち合わせを行い、実行委員会はSNSを活用しながら開催し、時期や内容、場所を検討した。

##### (2) 交流会の開催

実行委員会で出されたインボイス制度と電子帳簿保存法について理解したいとの意見を踏まえて、交流会と併せて、会員自身が事前に調べた内容に基づく勉強会も行うこととした。

交流会は1月16日に飯田市内の飲食店で開催した。少人数ながらも南部地区で新規就農を目指している参加者もあり、有意義な交流会となった。



交流会と併せて行った勉強会の様子

### ■今後の課題と対応

参加者からは、定期的・継続的な開催を望む意見が多かったため、交流がより一層深まるよう引き続き支援していきたい。

(阿南支所：岡田 孝章)

## 農業教育機関との連携

### ■背景とねらい

農業高校生や農業大学校生が、将来の職業選択に農業を視野に入れられるように、学校教育機関と連携し、農業の魅力を発信するとともに、農業体験研修の実施を支援する。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 下伊那農業高校との連携

##### (1) 情報交換会（アグリミーティング）の開催

6月27日に農業経営者協会下伊那支部と連携し、下伊那農業高校との情報交換会を実施した。

1人でも多くの生徒が農業に興味を持つよう、セミナーや先進農業者の視察を開催する方向で、関係者の意識統一ができた。

##### (2) 高校生へ農業の魅力発信

2月13日に管内の青年農業者2名を講師に招き、魅力発見セミナーを開催した。アンケートには講師の言葉が心に残り、農業をやってみたくなったとの感想もあり、農業への関心が高まった。



2/13 農業の魅力発見セミナーの様子

#### 2 農業大学校生の現地体験実習の受入

農業経営者協会下伊那支部と連携し、総合農学科4名、南信農業実科3名、畜産実科3名の合計10名の学生の受け入れを行った。学生からは農業の特徴や地域での役割、農家生活等が学べ、将来に役立てたい等の感想を聞くことができた。

### ■今後の課題と対応

高校生の先進農家視察の開催を計画すると共に、引き続き農業の魅力発見セミナーや農家体験研修の受入調整を行い、未来の担い手を確保する。

(技術経営係：片桐 直樹)

## 農業士協会下伊那支部の活動支援

### ■背景とねらい

飯田市と松川町を中心とした 15 名の会員で活動している。

支部役員への支援や各種行事への参加誘導を通じ、支部活動の活性化を図った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 会員ほ場巡回（5月19日、8月22日）

先輩会員からアドバイスを頂く趣旨で、5月に新入会員のほ場1か所を6名が見学した。8月にはスキルアップセミナーと連携し、会員のほ場2か所を5名が巡回した。各ほ場で活発に意見交換、またその後の懇親会で交流が図られた。

今年は会員以外の青年農業者にも声を掛け、親睦を深めつつ活動をアピールする取り組みを行った。その結果、参加者1名が新規認定された。



会員ほ場巡回

#### 2 地元選出県議会議員との学習会(12月22日)

農業経営者協会下伊那支部と連携し、4名参加した。内1名が果樹での温暖化対策について話題提供し、県議との意見交換・情報交換が図られた。

#### 3 新規会員の獲得

三役と各農業青年クラブや個人を巡回、農業士行事への誘い掛けと交流により、2名が講座を受講し2名とも新規認定された。

### ■今後の課題と対応

県協会・支部の各種行事への参加者の少なさと新規認定者確保が引き続き課題である。

役員、新規認定者を中心に支部会員同士の参加誘導や、会員による新規勧誘活動、SNS による外部への情報発信の強化により、行事への参加者及び新規認定数を増やし支部の活性化を図る。

(技術経営係：池浦 毅)

## 長野県農業経営者協会下伊那支部の活動支援

### ■背景とねらい

支部会員数は43名と県下最多であり、農業経営者としての役割や責任に基づいて、充実した組織活動を展開した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 支部事業の開催支援

6月22日に「農業経営資質向上研修」として会員13名と農業士2名、農村生活マイスター1名、PALネットながの1名が参加し、農福連携と農作業安全への理解を深めるとともに、農業農村支援センターとの情報交換により連携を深めた。

8月2日に支部間交流会と合わせて農業振興研究懇談会を開催し、会員23名が参加した。農福連携と6次産業化、循環型農業への取組事例を視察し、情報交換会を行った。

12月22日に県議会議員4名(内代理出席1名)、会員12名、農業士3名、農村生活マイスター4名、PALネットながの1名が参加して「地元選出県議会議員と農業者組織との学習会」を開催した。

「地球温暖化が水稻経営に及ぼす影響と対応策」及び「温暖化による果樹への影響と対策」について話題提供を行い、活発な意見交換が行われた。

2月20日から23日にかけて、海外視察研修を実施し、台湾における日本向け輸出農産物や有機栽培の実態調査を行った。

2月28日に新規就農者研修指導事業における宿泊研修受入れ農家の情報交換会を開催し、今後の農家研修における課題や解決策を検討した。

#### 2 新規会員の確保

新規会員の確保に向け、勧誘活動に取り組んだ結果、2名の新規会員を確保することができた。

### ■今後の課題と対応

今後も会員の要望に応え、充実した活動を実施するとともに、組織の活性化を図るため、会員と協力して新会員の確保に取り組んでいく。

(技術経営係：木下 雅仁)

## 農村生活マイスター協会飯伊支部の活動支援

### ■背景とねらい

支部では、2回の独自研修の他、他団体との連携研修等に参加し、マイスターの資質、経営の向上及び地域への波及を図った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 夏季研修会の開催支援（8月22日）

次代活性化事業を活用し、新たな観光農業・体験農業の先進事例として、富士見町のカゴメ野菜生活ファームを視察、



夏季研修・野菜生活ファーム社長のお話

17名が参加した。野

菜生活ファーム社長の講話と施設を見学し、特に女性社長の取り組みが参加者に好評だった。

#### 2 冬季研修会の開催（1月17日）

アクションプラン推進事業に加え、初めて牛乳・乳製品利用料理講習会事業を活用し、飯田市龍江公民館で「きのこ牛乳料理」研修を開催した。新規マイスター認定予定者2名を含む10名が出席し、スキルアップとともに交流が図られた。

#### 3 新規マイスターの認定

役員、市町村農政担当課と協力し、新規マイスター候補への声掛けや説明会を行い、本年度は4名が新規認定された。4人で長野市まで研修に行くなど同期の仲間意識の醸成ができ、また冬季研修への参加で活動への溶け込みができた。

### ■今後の課題と対応

研修会などにおいて、出席率が低い。魅力的な事業企画だけでなく、開催場所や時間帯など参加しやすい仕掛けを工夫する必要がある。

また本年は前述のように4名が新規認定されたが2名が名誉会員に移行し、新規認定者の確保は引き続き大きな課題である。会員のみでなく市町村との連携を密に候補者発掘に取り組みたい。

(技術経営係：池浦 毅)

## 農村生活マイスター協会飯伊支部西南部ブロックの活動支援

### ■背景とねらい

農村生活マイスターの認定申請には町村長の推薦が必要となるが、町村役場担当職員の異動等によりマイスターの活動が認知されにくくなってしまふ。

そこで、町村役場担当者にマイスターの意義や役割について理解を促す活動などを支援した。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 夏季研修会の開催支援（7月11日）

農産加工技術の向上及び地元農産物の利活用推進のため、飯田市内のJA農産加工施設を借りて、トマトケチャップ作りの研修会を開催した（出席者5名）。エシカル消費にもつながることから、参加会員からは継続開催を望む声も多く聞かれた。

#### 2 冬季研修会の開催支援（2月29日）

夏季研修会で作ったトマトケチャップと地元産食材を用いたパスタやピザの調理研修会を、いきいきらんど下條にて開催した（出席者5名）。

#### 3 町村役場職員との懇談会の開催（2月29日）

町村役場職員との懇談会は、出席者11名が4名ほどの小グループ



町村役場職員との懇談会

に分かれて、午前の研修会で作った料理を食べながら開催した。少人数のランチミーティングということで、打ち解けた雰囲気の中、マイスターの活動紹介に加えて、地域の特産である茶の振興方策など幅広く活発な意見交換が行われた。町村役場職員、マイスター双方にとって互いの業務や活動について理解が深まる取組となった。

### ■今後の課題と対応

管内ではマイスターが減少していることから、新たなマイスターの育成につなげるためにも、町村役場職員等との相互理解を深めるような活動を支援する。

(阿南支所：岡田 孝章)

## 飯伊地区農村女性ネットワークの活動支援

### ■背景とねらい

入会1名と退会4名があり、「いいだ」ブロック4名、「南部」ブロック3グループの39名で活動した。「北部」は4年前に脱会、県協は2年前に解散し、「いいだ」「南部」の各ブロックでの活動は盛んだが飯伊としての活動を探っていた。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 秋季研修会の開催（11月21日）

生活の中で発酵食品を通し健康を考えるきっかけとすることを目的に、木曾おもちゃ美術館にてすんきづくり体験の研修を行い、会員16名が出席した。

昼食は参加者全員で「すんきそば」をいただき、酸味が苦手な会員もいたが、研修の趣旨は概ね理解された。



すんきづくり体験研修

#### 2 総会、三役会、役員会など

2つのブロックの代表が集まる三役会、各グループの長が集まる役員会を開催している。

センターでは三役、役員会の支援の立場から情報提供や各種連絡調整等を行っている。

本年度は5月、3月に役員会、2月に三役会、3月に総会と座談会を開催した。

### ■今後の課題と対応

「いいだ」「南部」両ブロックで地域に根付いた活動が中心であること、高齢化で遠方まで出掛けづらいことから「飯伊」としての活動を閉じる。

今後は「北部」も含めたブロック間の交流を図る立場から支援を考える。

(技術経営係：池浦 毅)

## 飯伊地区農村女性ネットワーク南部の活動支援

### ■背景とねらい

飯伊地区農村女性ネットワーク南部では、会員の高齢化や減少対策が課題であるが、会員相互の交流や農村女性の活動促進を目的に支援活動に取り組んだ。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 刈払機安全講習会の開催（7月3日）

普段の農作業で使用する機会の多い刈払機について、安全で適正な使用方法や整備方法を学ぶ講習会を開催した。農機メーカーの職員を講師に、質疑応答を交えながら講演いただいた。参加者からは普段の疑問点を直接見聞することで理解が深まったなどの声が聞かれ、おおむね好評であった。

#### 2 冬季研修会の開催（12月5日）

地域食材の消費拡大を図るため、冬季研修会として「フライパンで作るガレット教室」を開催した（泰阜村農村女性ネットワークと共催）。身近にある食材を使い、簡単につくれることから正月休みに家で作ってみたいといった声も聞かれた。昼食をはさんで行った情報交換を通じて会員相互の交流も図られた。



冬季研修会（ガレット教室）の様子

### ■今後の課題と対応

農村女性の「学び」についての活動を継続するためにも、魅力的な取組を行い、新たな会員の掘り起こしを支援していく必要がある。

(阿南支所：岡田 孝章)

## 定年帰農者等を対象にした農業講座（帰農塾）の開催

### ■背景とねらい

退職後に農業を開始した他産業従事者や、兼業農家が改めて農業の基礎を学習する機会として、JA みなみ信州と共催して帰農塾を開催している。

また、令和3年度の募集から対象年齢を撤廃し、就農希望者の農業体験や、新規就農者の農業の基礎知識・技術の習得の場としている。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 帰農塾の企画運営

農業農村支援センターが企画、JA みなみ信州は講座開催の通知発送、出席者とりまとめ、会計を担うという協力体制を組んで実施した。

#### 2 基礎講座の開催

農薬の適正使用、農業機械の取り扱い、土づくり、農業簿記、鳥獣害対策など農業経営に必要な基本的な内容を実施した。

#### 3 専門講座の開催

新たになしコースを追加し、りんご、柿、なし、きゅうり、中玉・ミニトマト、アスパラガスの6コースを農業農村支援センターと JA みなみ信州が講師を分担し、現地ほ場等で講座を実施した。

講座の中で受講生から、栽培面積を増やしたい、新たに販売を開始したいなどの感想もあり、受講生の生産・販売意欲向上に繋がった。



7/23 なしコース 受講生ほ場巡回

### ■今後の課題と対応

受講者が農業の初心者であることに留意し、基本的事項を丁寧に説明するように心掛けながら継続して実施し、農業の多様な担い手を育成していく。  
(技術経営係：片桐 直樹)

## 経営力向上支援

### ■背景とねらい

円安等に起因する資材や燃油、飼料コストの高騰、あるいは世界情勢等により農業経営を取り巻く状況が極めて厳しい中で、これらを改善するため農業者の経営管理能力向上の支援に取り組んだ。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 複式簿記講座

スキルアップセミナー・帰農塾合同の講座を始め、北部農村生活マイスター、松川町2グループ、JA みなみ信州研修生を対象にのべ25回、193名の簿記講座を開催した。個別対応によりアフターフォローを行っている。

#### 2 地域支援チームの取組

資材・飼料高騰の影響が特に大きいこの経営体6戸および畜産(酪農)経営体27戸を対象に支援センター、JA等をメンバーとする地域支援チームを編成し、令和5年6月以降に栽培技術・経営管理、自給飼料増産等の課題に対する巡回指導のべ3回行った。

#### 3 農業経営セミナー

法人化することで規模拡大、経営改善を図ろうとする相談が多く寄せられることから、農業経営者総合サポート事業を活用し、宮田村の税理士法人より講師を招聘し令和6年1月25日に農業経営セミナーを開催した。法人化に関心のある農業者、関係機関から27名の参加、活発な質疑応答があった。

### ■今後の課題と対応

それぞれの問題点や課題解決にはより高度で専門的な知識・技術が求められるため、普及の持つコーディネート機能を発揮して各分野の専門家との連携を進める等、継続して支援していくことが必要である。

(地域第二係：清水 伸也)

## 青年農業者等へのカイゼン支援

### ■背景とねらい

4Sを実施し、問題点を把握、対策を実践、PDCAサイクルを回し続けることでよりよい経営を目指すカイゼン手法の導入が求められている。

座学や実践によるカイゼン講座の開催や、参加への声掛けなどでのカイゼンの推進を行った。

また管内でカイゼンを実施する6経営体を中心に巡回によるカイゼンの提案・指導を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 スキルアップセミナーでのカイゼン講座

スキルアップ  
セミナーで10  
月と2月の2回、  
カイゼン手法を  
説明する座学編



カイゼン実施経営体視察

と、取り組み農家を視察し、問題点を見つける実践編を実施し、延べ10人が出席した。

#### 2 取り組み経営体への継続支援

取り組み6経営体には、対象ごとに作目担当とカイゼン担当で1～5回巡回し、課題の明確化や取り組みの内容、方向等について支援した。

#### 3 県域でのカイゼン講座への出席誘導

県域で12月12日に開催されたカイゼン研修について、農業士協会下伊那支部、PALネットなどの等の青年クラブなどを通じて出席を促した。南信州地域からは3名の青年農業者が出席し、質疑応答を行うなど今後の取り組みにつながる結果となった。

### ■今後の課題と対応

経営体として考えた場合、経営者のみでなく、家族や雇用も含めた従業員の理解や協力体制を構築する必要があり、それに対する支援が必要。また今後取り組み経営体の増加に伴い、センター内でもカイゼン提案ができる職員を増やす必要がある。

(技術経営係：池浦 毅)

## 家族経営協定の推進

### ■背景とねらい

家族経営協定の締結数は制度開始から順調に増加しており、管内の締結数は全県の約1割を占めている。締結推進に大きな役割を果たしているのが農業委員会、認定農業者、協定締結者等であるため、これらの組織を対象とした学習会を開催し啓発活動に取り組んだ。

### ■本年度の取組と成果

飯田市では家族経営協定締結者で組織する「重陽会」の主催による学習会を通じて、締結予定の家族、推進する立場である農業委員や制度的なメリットを享受できる認定農業者、若手農業者らを対象に啓発活動を行った。他町村でもそれぞれ学習会開催、情報提供を行い、飯田市6組、下條村1組の締結が成立した(令和6年1月末現在)。

市町村	締結数	市町村	締結数
飯田市	209組	松川町	76組
高森町	7組	阿南町	2組
阿智村	11組	下條村	15組
天龍村	2組	泰阜村	5組
喬木村	9組	豊丘村	2組
根羽村	1組		
合計		339組	

家族経営協定締結数(令和6年1月31日現在)

### ■今後の課題と対応

家族経営協定の締結は手段に過ぎず、その目的は取り決めた内容を実践していく中で家族間の話し合いによって随時見直すことでより良い農業経営の実現につなげることにある。従って、協定締結後の家族の意識の変化や実践状況等も把握しておく必要がある。

今後も継続して各市町村農業委員会等へ積極的な啓発活動を行っていく。

(地域第二係：清水 伸也)

## 農作業安全への取組

### ■背景とねらい

本県における過去 10 年間の農作業死亡事故の平均発生件数は 12.9 人と高止まりしていることから、市町村や JA 等関係機関と連携して、農作業死亡事故ゼロへ向けて啓発活動を行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 農作業安全講習会の開催

6月22日に農業経営者協会下伊那支部と連携して農作業安全に関する学習会を開催し、農業経営士を含む17名が参加した。

8月8日にJAと連携して、新規就農者や定年帰農者等28名を対象として、実際の機械操作による農業機械・農作業安全講習会を開催した。



農業機械・農作業安全講習会

8月22日にコンバインオペレーター等153名を対象に開催された籾摺り調製技術者講習会において、農作業安全を指導した。

#### 2 各種指導会、農業委員会等での啓発活動

作目別栽培指導会や農業委員会等に合わせ、資料、ステッカー、チラシを配布した。

#### 3 広報車による管内巡回

5月と9月に、延べ6回管内を広報車により巡回し、一般農業者への安全啓発を実施した。

### ■今後の課題と対応

本年度は、管内での死亡事故は発生しなかったものの、県内では7件の農作業死亡事故が発生していることから、関係機関と連携して、農作業死亡事故ゼロを目指し安全啓発に取り組んでいく。

(技術経営係：木下 雅仁)

## りんご褐斑病の発生消長把握と防除適期の検討（松川町）

### ■背景とねらい

近年、りんごの褐斑病の発生が増加している。

松川町では、地域の防除適期を把握するため南信農業試験場の協力により町内2か所で越冬病斑からの子のう胞子の飛散消長と、一次伝染期の発病調査を令和4年から実施している。本年も引き続き地域の発生消長を把握するとともに、効果的な防除対策を検討する取り組みを行った。

### ■本年度の取組と成果

#### 1 褐斑病の適期防除によるりんごの品質確保

##### (1) 発生消長の確認

昨年に引き続き、標高520m、標高810mのほ場で調査をいただいた。2年間の調査結果から、胞子の飛散開始期は3月中・下旬で飛散ピークは4月中～下旬、およそ開花期から落花期頃になることがわかった。また、感染の推測日は520mで4月下旬から5月上旬、850mでは5月中旬から5月下旬頃と推測された。

以上のことから、当地域では開花期前後から感染が起こるため落花期頃から褐斑病を対象とした防除が必要になることが確認された。

##### (2) 発生消長情報の提供と防除の注意喚起

南信農業試験場よりいただいた情報は、FAXやSNS、メール等で関係機関や生産者に提供するとともに防除について注意喚起を行った。

また、防除対策としては、唯一の感染源となる被害落葉の処理が重要なことから、松川町農業技術者連絡協議会においてチラシを作成・配布することにより、落葉処理の徹底を図った。

##### (3) 防除検討会での周知

町内の防除検討会等で、調査結果の周知を図るとともに、落花期の防除薬剤の検討を行っている。

### ■今後の課題と対応

次年度からは新たな予察法を活用し、適期防除のための予察情報の提供を行う。

(地域第一係：木下 倫信)